



第25回歴史地震研究発表会の懇親会にて
於つくは市 ホテルグランド東雲

[研究会記事] 歴史地震研究会だより 2008 年 4 月～2009 年 4 月

歴史地震研究会幹事会

目次

- ・ 前号以降の歴史地震研究会の活動(2008 年 4 月～2009 年 4 月)と今後の予定
- ・ 2007 年度第 4 回歴史地震研究会幹事会(2008 年 6 月 3 日)議事録
- ・ 2007 年度第 5 回歴史地震研究会幹事会(2008 年 8 月 28 日)議事録
- ・ 第 25 回歴史地震研究会(2008 年 9 月 13～15 日)報告
- ・ 第 25 回歴史地震研究会 総会(2008 年 9 月 14 日)議事録
- ・ 2007 年度(2007 年 9 月～2008 年 8 月期)決算, 2008 年度(2008 年 9 月～2009 年 8 月期)予算ならびに 2008 年度事業計画
- ・ 2008 年度第 1 回歴史地震研究会幹事会(2008 年 10 月 9 日)議事録
- ・ 2008 年度第 2 回歴史地震研究会幹事会(2008 年 12 月 11 日)議事録
- ・ 2008 年度第 3 回歴史地震研究会幹事会(2009 年 2 月 13 日)議事録
- ・ 第 26 回歴史地震研究会(2009 年 9 月 12～14 日)開催のお知らせ
- ・ 『歴史地震』原稿募集のおしらせ
- ・ 歴史地震研究会会誌編集規程
- ・ 歴史地震研究会への入会手続きのご案内
- ・ 歴史地震研究会会則(2008 年 9 月 14 日改正)
- ・ 歴史地震研究会役員および委員名簿(2009 年 5 月 1 日現在)

歴史地震研究会の活動(2008 年 4 月～2009 年 4 月)と今後の予定

2008 年

- 6 月 3 日(火) 2007 年度第 4 回歴史地震研究会幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 8 月 28 日(木) 2007 年度第 5 回歴史地震研究会幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9 月 13 日(土)～15 日(月) 第 24 回歴史地震研究会(茨城県つくば市産業技術総合研究所)
 - 13 日 研究発表会, 懇親会
 - 14 日 研究発表会, 総会
 - 15 日 見学会「地図に見る関東地震」展と特別講演会(国土地理院 地図と測量の科学館)
- 10 月 9 日(木) 2008 年度第 1 回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 12 月 11 日(木) 2008 年度第 2 回幹事会(地震予知総合研究振興会)

2009 年

- 2 月 13 日(金) 2008 年度第 3 回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- (以下, 予定)
- 5 月 25 日(月) 2008 年度第 4 回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9 月 12 日(土)～14 日(月) 第 26 回歴史地震研究会(滋賀県大津市)

2007 年度第 4 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2008 年 6 月 3 日(火)15:00~17:00

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:北原(会長),武村(副会長),植竹,小松原,宍倉,堀川,松浦(以上,幹事)

議事

1. 2008 年つくば大会の準備

1-1 企画展示関係

図録の原稿は巻頭言・謝辞などを除いてほぼ集った。

企画展示の内容について 6 月 6 日に行事委員会内の企画展示責任者(北原・武村)が打ち合わせを行い,具体的な進め方を検討する。

1-2 大会運営

大会運営は産総研内の行事委員が中心となって進める。座長など諸系の依頼は産総研内の行事委員が担当する。会場周辺に食堂がないので,参加者に弁当の予約を勧める。

1-3 プログラム・予稿集

32 件の講演申し込みがあった。さらに口頭で数件の申し込み予定の連絡を受けている。6 月 6 日までに正式なプログラムを松浦編集幹事が組み,地震学会ニュースレター原稿として提出する。予稿集の編集・印刷は松浦編集幹事が担当し,安価なホチキス止めの配布資料の形でまとめる。

1-4. ポスターの大きさ

ポスターのサイズは横 90cm*縦 180cm とする。

1-5 広報

企画展の情報を発表する許可が出たら「なみふる」に企画展の広告掲載を依頼する。

地震学会ニュースレターの投稿は松浦幹事が,企画展の情報については行事委員会で広報記事を作成する。

2. 中西会員からの提案への対応について

中西会員からメール(musha および幹事個人宛メール)で研究会として地震・火山噴火史料の収集と校訂に取り組めないかとの打診・要望を頂いている。これに対して,つくば大会の研究発表会の場で提言ないし問題提起の形で発表してもらう形で提案に対応することとした。

3. 編集規定の見直し

特定の分野について査読を依頼できる会員が少なく,非会員に査読を依頼せざるを得ない状況が発生する恐れがある。この場合の対応法について議論し,非会員に査読を依頼した場合には会より薄謝を支払うこと,その旨編集規定に明記すること,を決定した。

4. 次期役員について

次年度に交代を希望している財政幹事と総務幹事の後任人事について議論した。財政幹事の負担軽減のため,会誌発送事務等を印刷社に外注できるかどうか検討することになった。

5. 外部への協力事業について

東京大学史料編纂所の石本コレクション展(仮称)に歴史地震研究会として協力する。具体的な協力者は西山会員・白石会員および松浦会員である。この件について総会(2007~08 年度活動報告)で北原会長が報告する。

6. 「歴史学研究」への会長の寄稿について

歴史学研究会より北原会長に依頼されていた歴史地震研究に関する紹介が、下記のように掲載された。
北原系子(2008)歴史地震研究会と歴史学研究, 歴史学研究, 841号, 70-74.

第5回幹事会の日程

2008年8月28日(木)15時から地震予知総合研究振興会会議室で開催する予定。

2007年度第5回歴史地震研究会幹事会議事録

日時:2008年8月28日(木)15:00~17:30

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:北原(会長),武村(副会長),植竹,小松原,宍倉,堀川,松浦(以上幹事),金田(行事委員)

1. つくば大会準備報告

1-1 産総研の後援名義使用

産総研講堂使用にあたり,産総研の後援名義を得ることが求められているので,これを申請している。

1-2 大会予算

今年度は予稿集印刷費を低く抑えたため,大会運営費が比較的潤沢にある。これを1)名札などの消耗品を例年よりもやや多めに購入し次年度以降の負担を軽減する,2)会場での茶菓子代・非常勤雇用ほかのサービス経費に充てる,ことで大会運営収支をつりあわせる。以上に基づいて大会関係予算を作成する。

1-3 大会運営要員

行事委員から大会運営要員に関する説明があった。当日の受付は幹事・行事委員が持ち回りで担当する。

1-4 図録・企画展・講演会

いずれも順調に進んでいる。

図録は完成,日本地図センターの係員が9月14日(大会2日目)12:00~13:00に会場で研究会会員対象の割引販売(1冊1200円)を行う。図録と企画展のチラシ・ポスター各3部を研究会で保管する。

企画展は9月3~4日に設置作業,3日15時に武村副会長が設置状況を視察する。

講演会は15日10:00~および13:30~の2回,講演者は宍倉・武村・西村(国土地理院)。大会会場で講演会への参加を呼びかける。15日は基本的に自由行動とする。

1-5 取材関係

8月28日朝日新聞社黒澤記者から展示の内容について問い合わせがあった。

1-6 図書販売など

大会期間中図書販売を行う人には,各自の責任で販売・管理することを要請する。

1-7 今後の案内

musha などを通じて,1)自家用車で来場しないこと,2)産総研正門で守衛に呼び止められるが,研究会参加者であることを告げれば問題なく入場できること,3)つくば市内のホテルなどに宿泊する人には,産総研中央センターの共用講堂まで送迎してもらうことを勧める,の3点を伝える。

1-9 予稿集

予稿集は80部印刷する。

2. 会誌無償配布の検討

従来地震研経費で公的機関向けに印刷・送付されてきた会誌(270部)を,今後どうするか検討した。財政幹事による試算では,約200部の無償配布は可能。次年度予算案で配布数を決め,次年度幹事会で具体的な配布先を検討する。

3. 予算方針

永井監査役から提案されていた2案件(会の資産を増やし過ぎないこと、監査前に計算ミスがないか確認すること)について議論した。

会の資産については収入超過を避けることを原則として、1)会誌の無償配布(研究会の公的役割)、2)バックナンバーの電子ファイル化・HP上の公開などの経費に充てる(会員サービス)、3)HP管理の適正化・幹事会参加者への交通費支給・役員のボランティアでまかなわれてきた作業の外注化に充てる(会計の独立・幹事個人負担の軽減)、などにより現在のやや余裕がある会計状況に応じて支出することで対応することに決定した。

4. 次年度幹事会で継続審議する案件

以下の案件について、次年度幹事会で継続審議する。

1)会誌の無償配布先、2)ホームページ管理のあり方、3)バックナンバーの電子化とインターネット上での公開

5. 規約改正

第二回幹事会の決定に基づいて、会長・監査役の選出規定(下記)を加える規約改正案を総会に提案する。

~~~~記~~~~

第16条 4 会長および監査役の選出手続きは付則に定める。

付則 第2条 第16条による会長選出手続 会長候補者は3名以上の推薦者をもって立候補し、総会の1週間前までに幹事会に届け出る。

付則 第3条 第16条による監査役選出手続 監査役は3名以上の会員による推薦を受けた者の中から総会で選出される。推薦者ないし被推薦者は総会開催前に幹事会に届け出る。

~~~~~

6. 総会次第

武村副会長案を軸に総会議事次第を議論した。総会までに総務幹事が議事次第を完成させる。

7. 役員の負担軽減

今年度に引き続いて役員の負担軽減を図る。特に財政幹事が行ってきた業務のうち、会誌発送など外注可能なものは外注で処理する。

8. 次回大会の日程

次回大会は2009年9月12(土)13(日)を軸とする3日間、滋賀県大津市にて開催する。植村会員に行事委員就任を依頼。

第25回歴史地震研究会(2008年9月13~15日)報告

大正関東地震から85年を迎える2008年、産業技術総合研究所のご協力を得て、9月13日(土)から15日(月)の日程で、研究発表会・総会・見学会が実施されました。研究発表会には69名が参加し、43件(口頭34件、ポスター9件)の発表がありました。また初日夕刻に懇親会が開催されました。

会場：産業技術総合研究所共用講堂

日程：2008年 9月13日(土)、14日(日)

・研究発表会

9月14日(日)夕刻

・総会

9月15日(月)

・見学会:

詳しいプログラムは以下の通りです。

9月13日(土) 研究発表会一日目(産業総合研究所共用講堂大会議室), 懇親会

10:30~12:00 **現象, 被害と対応**(座長: 植竹富一・西山昭仁, 時計係: 諸井孝文)

1. 都司嘉宣 安政東海・南海地震(1854)に伴う日月異常, 及び火柱現象について

2. 西山昭仁 幕末期の京都における災害対応 伊賀上野地震(1854年)と

元治大火(1864年)を中心に

3. 白石睦弥 寛保津波の被害と北方諸藩の対応

4. 林能成・木村玲欧・大原祐一・荒川智也 三重県南部における1944年東南海地震被災体験談の収集

5. 木村玲欧・林能成 個人の被災体験を教訓化し防災教育教材にする試み~

1944年東南海地震・1945年三河地震を事例として

6. 今村隆正・角谷ひとみ・大石雅之・高田郁 地震に備えて私たちができること

昼休憩

13:00~14:30 **ポスターセッション**

7. 桜井貴子 皇極紀の青い霧と鶴見火山の活動

8. 今村隆正・大石雅之・角谷ひとみ 日本の大規模崩壊は地震でどのくらい発生しているのか

9. 上月康則・田邊 晋・井若 和久・栗原 美波・山中 亮一・村上 仁士 徳島県の地震・津波碑と

その管理について

10. 小野友也・都司嘉宣 元禄関東地震(1703)の津波記録, 地震記録, および

震度分布にもとづく断層モデルの考察

11. 遠藤恵・小山真人 自然現象記録媒体としての静岡県沼津の中近世史料『大平年代記』の特性分析

12. 高野和友・木股文昭 測地データによる1945年三河地震断層モデルの再検討

13. 木股文昭・田中和重好・高橋誠 錦におけるオンサイト型津波避難システムとその歴史・科学的背景

14. 榎本祐嗣・安田英典 地震津波発光を伴った津波巨大化のメカニズムに付いての一考察

1946年南海地震津波史料から

15. 松浦律子・中村操・唐鎌郁夫 江戸時代の歴史地震の震源域・規模の系統的検討作業

安政五・六年の石見の地震等10地震について

14:45~17:00 **津波・史資料・繰り返し**(座長: 小松原純子・中村操, 時計係: 中村操・行谷祐一)

16. 羽鳥徳太郎 三陸沖津波による遡上高の地域偏差

17. 羽鳥徳太郎 十勝沖~千島列島間の津波による三陸沿岸の波高偏差

18. 行谷佑一・佐竹健治・穴倉正展・藤良太郎・竹内仁 フィリピン海プレートの形状を考慮した

元禄関東地震の断層モデルと外房の津波

19. 津村建四朗 明治時代の灯台の地震観測資料について

20. 渡邊健 宮崎県の高公文書に遺された明治時代の地震記録

21. 中西一郎 『兵庫県神社誌』中の地震記録

22. 石辺岳男・中谷正生・鶴岡弘・島崎邦彦 震源域の地震活動から見た地震の繰り返し挙動

23. 堀高峰・宮崎真一 プレート境界地震の再来間隔の規模依存性とそのモデル化

24. 中西一郎 見直しを要する諸地震

18:00-20:00 懇親会(於: ホテルグランド東雲)

9月14日(日) 研究発表会二日目, 総会(産業総合研究所共用講堂大会議室)

10:00~12:00 **地震毎の検討**(座長: 堀高峰・白石睦弥, 時計係: 林能成)

25. 河内一男 1670年西蒲原地震は1828年三条地震の一つ前の地震か

- 26. 菅原正晴・植竹富一 1751年越後・越中の地震の震度分布図に基づく断層モデルの評価
- 27. 植竹富一・野口厚子・中村操 天明相模の地震および嘉永小田原地震の被害と震源位置
- 28. 都司嘉宣 文化9年11月4日(1812年12月7日)神奈川地震について
- 29. 赤羽貞幸・原田慎太郎・桑原夏美・菅野真司 石灯笼の破損から見た善光寺地震(1847)の震動
- 30. 中村操 1854年安政東海地震の被害と表層地質
- 31. 植村善博 1925年サンタバーバラ地震の被害と復興過程
- 32. 武村雅之・神田克久・阿比留哲生・原弘明 20世紀初頭に九州・南西諸島で発生したやや深発地震の震度分布と地震規模 1909年宮崎県西部地震と1911年喜界島近海地震についての検討 -

昼休憩

- 13:15~14:45 **大正関東地震**(座長:松浦律子・村岸純,時計係:木村玲欧)
- 33. 武村雅之 「天災日記」:鹿島龍蔵と関東大震災
- 34. 諸井孝文・武村雅之 1923年関東地震における死者発生のプロセス - その3:
千葉県安房郡の人的被害
- 35. 北原糸子 「関東大震災・地図と写真のデータベース」作成にあたって
- 36. 王京 日本における災害航空写真の登場について
- 37. 西田幸夫 関東大震災における火災延焼と避難について
- 38. 井上公夫 関東地震(1923)時の震災地応急測図原図と土砂災害

休憩

- 15:00~16:15 **地形・地質からの検討**(座長:行谷祐一)
- 39. 宍倉正展・越後智雄・行谷祐一 能登半島北西部の隆起生物遺骸群集に記録された最近1000年間の地震履歴
- 40. 村岸純 房総半島における元禄関東地震時の地殻変動とその後の沈降運動
- 41. 島崎邦彦・金幸隆・千葉崇・石辺岳男・都司嘉宣・岡村眞・松岡裕美・行谷祐一・佐竹健治・今井健太郎・泊次郎 三浦半島小網代湾干潟の津波堆積物
- 42. 藤原治・平川一臣・阿部恒平・入月俊明 伊豆半島南端の入間に伝承された"津波堆積物"の掘削調査
- 43. 小松原純子・藤原治・高田圭太・澤井祐紀・タン ティン アオン・鎌滝孝信 東海道白須賀宿付近の堆積物に記録された歴史時代の津波と高潮

16:30- **総会**

9月15日(月)見学会:国土地理院 地図と測量の科学館での企画展「地図に見る関東地震」

会場:国土地理院 地図と測量の科学館

特別講演 第1回10時~ 第2回1時半~

1. 宍倉正展(産業技術総合研究所)
「地形が語る過去の関東地震」
2. 武村雅之(鹿島建設小堀研究室)
「未曾有の大災害に学ぶ」
3. 西村卓也(国土地理院)
「近代測量によって明らかになった大正関東地震の地震像と現在の関東地方の地殻変動」

第25回歴史地震研究会 総会議事録

日時:2008年9月14日(日)16:30~18:00

場所:産業技術総合研究所 共用講堂大会議室(茨城県つくば市)

・総会には全会員数の10分の1の実出席を要する。定足数20名を上回る33名の会員が出席し、総会の成立

を確認。

・武村副会長が津村会員を推薦し、拍手により同氏を議長に選出。津村会員が議長席につき、以下の議案につき審議を行った。

○議事

1. 2007 年度活動報告

(1) 総括(北原会長)

特に歴史系学会との交流を重視し、「歴史学研究」に本研究会の紹介を北原会長が寄稿、掲載された。社会貢献活動として 1)川崎市宮前区主催の市民防災講座(講師派遣), 2)国土地理院主催地図と測量の科学館企画展「地図にみる関東大震災」(展示協力・図録作成), 3)東京大学附属図書館特別展示「かわら版・絵巻にみる江戸・明治の災害情報-石本コレクションから-」(展示協力・解説文執筆)の3つの事業に研究会として協力した。

開催地自治体などの負担を避けることを考え、今年度は大会をつくば市の産総研で開催した。大会に関連して国土地理院主催で開かれる地図と測量の科学館企画展の展示協力に力を注いだ。

(2) 社会的活動の詳細(武村副会長)

金銭の負担をかけずに講師派遣などの形で積極的に社会的活動を行った。北原会長から紹介された上記の3事業について、幹事会メンバー自身ないし幹事会から会員に講師などを依頼する形で研究会として協力してきた。

2. 各委員会報告

総務委員会(小松原総務幹事):5回の幹事会を開催するなど会が円滑に運営されるよう努めた。

行事委員会(堀川行事幹事):行事幹事のほか井上会員(企画展示担当)・金田会員(大会運営担当)・北原会長・武村副会長・小松原総務幹事の計6名で行事委員会を組織し、大会運営、企画展展示協力および図録作成を行った。

編集委員会(松浦編集幹事):歴史地震23号を4月に発行。一部の論説についてはジャンル変更を求めた。ページ数は例年とほぼ同程度。図にプロテクトをかけた上でPDFファイルをWeb上に公開。大会要旨集は経費節減のため簡素な製本とした。

広報委員会(植竹広報幹事):小山会員の協力を得、HPの充実、関連他学会とのリンクページの充実に努めた。

3. 2007 年度決算および入退会者報告(宍倉財政幹事)

- ・別紙「歴史地震研究会 2007-2008 年度 決算報告」を参照。
- ・収入 ¥552,253 支出 ¥197,537
- ・前年度繰越金 ¥1,089,733 次年度繰越金 ¥1,444,449
- ・新規入会者は7名,退会者9名
- ・長期会費未納者7名,連絡先不明会員3名
- ・2008年8月31日における会員数は199名

4. 2007 年度会計監査報告(永井・渡辺会計監査役)

- ・別紙「歴史地震研究会 2007-2008 年度 決算報告」の内容について、帳簿等を確認して了承
- ・なお資産(繰越金)が多いが、公共機関への会誌無償配布による支出増が見込まれるため、今後収支は均衡していくと予想される(永井監査役)。

5. 質疑

- ・長期会費未納者・連絡先不明会員は退会扱いとしても良いのではないかと(山下会員)
- ・2年以上会費未納・連絡先不明の会員には督促状のみを送付し、会誌は送っていない。それでも対応されない人は退会者として扱っている(宍倉財政幹事)。

- ・会費振込状を会誌と一緒に送付されると混乱の原因となりやすい(山下会員).
- ・注意喚起に工夫すべく振込み状の送付方法について再検討する(宍倉財政幹事)
- ・残高が多くても気にすることはないのではないか(山下会員)

6. 2007 年度決算承認

別紙「歴史地震研究会 2007-2008 年度 決算報告」の内容を全会一致で承認.

7. 規約改正(小松原総務幹事)

会長・監査役の選出規定を明文化するため、これまで実際に行なわれてきた選出手続きに沿う形で選出規定を規約に加える改正案(以下)を提案した.

従来の規約(第 3 条)

- 第 16 条 会長は会員の中から総会で選出する.
2. 副会長および幹事は会長が会員の中から委嘱する.
3. 監査役は会員の中から総会で選出する.

付則

- 第 1 条 第 10 条による会費は、次の通りとする. 会員 3000 円
- 第 2 条 本会則は、2006 年 9 月 17 日から施行する.

改正案(第 3 条)

- 第 16 条 会長は会員の中から総会で選出する.(改変なし)
2. 副会長および幹事は会長が会員の中から委嘱する.(改変なし)
3. 監査役は会員の中から総会で選出する.(改変なし)
4. 会長および監査役の選出手続きは付則に定める.(新規定)
- 付則 第 1 条 第 10 条による会費は、次の通りとする. 会員 3000 円(改変なし)
- 第 2 条 第 16 条による会長選出手続 会長候補者は 3 名以上の推薦者をもって立候補し、総会の 1 週間前までに幹事会に届け出る.(新規約)
- 第 3 条 第 16 条による監査役選出手続 監査役は 3 名以上の会員による推薦を受けた者の中から総会で選出される. 推薦者ないし被推薦者は総会開催前に幹事会に届け出る.(新規約)
- 第 4 条 本会則は、2008 年 9 月 15 日から施行する.

- ・役員選出規定は明文化されていることが望ましいので賛同する(今給黎会員)
- ・拍手により承認.

8. 役員選出

(1) 次期会長(武村副会長)

北原会長が引き続いて会長を勤められることを幹事会全員で推薦、拍手により承認.

(2) 次期監査役(武村副会長)

永井九一氏と渡邊健氏の監査役留任を全会一致で承認.

9. 会長あいさつ

「会としてできることは努力していく. 会員各位に協力と助言をお願いする. 研究会が持続・発展することを目標として会長職を務める.」と所信表明

10. 役員指名(北原会長)

- ・会長が各幹事を指名.
- 副会長: 武村雅之氏(留任)
- 総務幹事: 中村亮一氏(新任; 小松原琢前総務幹事より引継ぎ)
- 広報幹事: 植竹富一氏(留任)
- 編集出版幹事: 松浦律子氏(留任)
- 財政幹事: 諸井孝文氏(新任; 宍倉正展前財政幹事より引継ぎ)
- 行事幹事: 小松原琢氏(新任; 堀川晴央前行事幹事より引継ぎ)

11. 新年度役員就任挨拶

- ・各役員から各々の業務に関する抱負の表明.
- 編集幹事から以下の方針説明があった.
- 会誌の別刷は, 80代以上の会員に対してのみ印刷物を提供. それ以外は原則として pdf ファイルから各自が印刷するよう依頼.

12. 次年度大会の計画(小松原行事幹事)

- ・2009年9月12日~14日に滋賀県大津市にて開催を計画.
- ・植村会員・西山会員に行事委員就任を依頼し承諾いただいた.
- ・現段階では12日と13日午前に研究発表会, 13日午後に市民向け講演会, 14日は大津市内の見学を計画.

13. 2008年度予算と同年度事業計画(宍倉前財政幹事)

- ・別紙「歴史地震研究会 2008-2009年度 予算案」を参照.
- 収入: 会費 ¥570,000 (190名×¥3,000)
- 支出: ¥532,750
- ・補足説明: 従来地震研の経費で作成・送付していた公共機関向けの会誌無償配布経費を今後は研究会の経費として計上するため, この分の支出が増加.
- ・大会準備費は100,000円で足りるのか? (中村操会員)
- ・関東からは1度の出張で対応可能, 細部は京都在住の行事委員が対応するので大丈夫と考えている(小松原行事幹事)

14. 2008年度予算承認

- ・別紙「歴史地震研究会 2008-2009年度 予算案」の内容について, 全会一致で承認.

15. 自由討論

(1) 国土地理院企画展に関連して

- ・今回の関東大震災の企画展示は良い内容であり, いろいろな人に見てもらうために東京や横浜などでも同様の展示ができないか(山下会員)
- ・地すべり学会で震災応急測図など企画展に関連するものの紹介と図録の販売を行っているほか, 山梨・静岡・神奈川サミットその他の場面でも企画展の紹介と図録の販売に協力している(井上会員)
- ・展示パネルの保存をお願いできないか(津村会員)
- ・神奈川で開催してもらえないか(渡辺健会員)
- ・国土地理院の広報予算の使い道に対して制約が強くなってきている. 国土地理院ないし日本地図センターが名前を冠した上で自治体などが主催する展示活動に貸し出す形での協力は可能と思う. パネルは日本地図センターが保管するが, 所有権は国土地理院にあるので, 両者にパネル保管を要請することは大切であろう(今給黎会員)

・無理のない範囲で、国土地理院と日本地図センターに展示物の保管と他機関での公開への後援を交渉すると同時に、展示に意欲をもつ機関を探す、という方向で会として対応してはどうか(津村会員・武村副会長)

(2)著作物の権利に関連して

・論文の著作権は歴史地震研究会ではなく著者本人にあるのではないか？(山下会員)

・「歴史地震」の著作権は出版者つまり研究会に移譲してもらっていると理解して欲しい。ただし自著論文を転用するにあたっては単に研究会に連絡するだけで良く、著者に不利益をもたらすことはない。他学会でも同様の扱い(松浦編集幹事)

(3)公共機関への会誌無償配布に関連して

・公共機関などへの会誌無償配布にあたって、印刷製本費だけでなく送付などに必要な経費も予算に盛り込まれているか(都司会員)

・発送に関わる経費など一切を含めて予算を組んでいる(宍倉財政幹事)

16. 閉会(武村副会長)

2007年度(2007年9月～2008年8月)決算, 2008年度(2008年9月～2009年8月)予算ならびに2008年度事業計画

歴史地震研究会 2007-2008年度 決算報告

	項目	予算額	決算額	増減	内訳
収入	2007-2008年度会費	597,000	480,000	-117,000	160名×3000円
	2006-2007年度以前会費(未払い者)	0	63,000	63,000	21口
	会誌バックナンバー売り上げ	0	9,000	9,000	
	銀行利息	0	253	253	
	前年度繰越	1089733	1,089,733	0	
	合計	1,686,733	1,641,986	-44,747	

支出	下田大会補填	100000	-45,649	-145,649	
	つくば大会準備費	20000	0	-20,000	
	歴史地震23号印刷代	210000	175,525	-34,475	250部
	会誌送付代	40000	29,440	-10,560	
	HP管理費	12600	12,000	-600	
	雑費(通信費・消耗品費など)	20000	26,221	6,221	
	合計	402,600	197,537	-205,063	

次年度繰越金	1,284,133	1,444,449	160,316
--------	-----------	-----------	---------

8月31日時点の会員数: 199名(新規入会7名, 退会9名, 長期会費未納者7名, 行方不明3名)

歴史地震研究会 2008-2009年度 予算案

	項目	予算額	内訳
収入	会費	570,000	190名×3000円(在外会員は除く)
	前年度繰越	1,444,449	
	合計	2,014,449	

支出	会誌印刷費(歴史地震24号)	330,750	(735円×450部)
	会誌送料	60,000	(150円×400部)
	HP管理費	12,000	
	雑費(通信費・文房具購入など)	30,000	
	つくば大会補填	0	
	次回大会準備費	100,000	
	合計	532,750	

次年度繰越金	1,481,699
--------	-----------

2008年度事業計画

歴史地震研究会は, 2008年度(2008年9月～2009年8月)に, 以下の事業を実施する.

1. 第26回歴史地震研究発表会を, 2009年9月半ばに滋賀県大津市で開催する準備をする.
2. 会誌『歴史地震』第24号を450部発行する. うち, 200部は公的機関に配布する.
3. その他, 必要な事業

2008年度第1回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2008年10月9日(木)09:30~12:00

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:北原(会長),武村(副会長),植竹,中村,松浦,諸井(以上,幹事),宍倉(旧幹事)

議事

1. 会長挨拶

研究会行事等が順調に進むように適切に会合を開いていきたいこと等が述べられた。

2. 企画展巡回展示について

会長より,国土地理院平井氏から,「東京都測量設計業協会」の会誌特別号出版で,企画展の図録を活用したいことや同協会の6月のイベント協力について相談があったことが報告された。これについては,後日再度連絡をとりあっていくこととなった。その他,千代田区・中央区や地震研究所での展示を行う場合の課題についても話し合いが行われた。

3. 著作権について

編集幹事より,著作権の考え方について説明があった。法律上,著作権は研究会に委譲されているものと考えられるが,原著者の利用は妨げるものでなく,転用する場合には研究会に連絡するだけでよいこととの説明がなされた。

逆に,他の雑誌等の図表や特に絵図については,著作権・所有権を有する機関に投稿する時点で許可を得た上で投稿してもらう必要がある。これは当研究会の規定以前の問題であるが,投稿者への注意喚起として伝達してゆく方法を考えていくこととなった。

4. 会費の徴収案内・議事録の送付について

総会では,会費の振り込み用紙を会誌と一緒に送ると混乱の原因となるという意見があったが,これに対し会誌と一緒に綴じる改善策などが議論された。また,前財政幹事からは,昨年度までは,未納の会員に対して総会の議事録・投稿の呼び掛け等と一緒に再度送っていることが紹介された。これに対して,総会議事録については,メールアドレスのある会員については,メールで議事録を送付すれば良いのではという意見もあった。いずれも費用と手間の両面から考えていく必要があり,会誌と一緒に綴じる場合の費用の増加の程度について調べていくこととなった。

5. 幹事の役割分担及び印鑑・バックナンバー・備品(消耗品)の管理について

幹事の交代に伴って,役割分担及び印鑑・バックナンバー・備品(消耗品)の管理について確認を行った。発表プログラムと予稿集が異なる場合があり,これに対応して行事幹事と編集幹事の間での調整が必要との意見が出された。

6. 会誌無料送付先の選定

現在,会誌無料送付先の機関名や住所などが古いままである。このため幹事が分担して送付先の選定及び送付先の新情報の更新作業を行っていくこととなった。

7. 投稿規定の見直し

会員から,会誌の論文に扱った地震の発生年や地震名をキーワードとして入れてほしいとの要望があったことに対して議論された。入れる場合,編集規定の改訂も必要であるため,さらに検討していくこととなった。

また,会員から出された新刊図書紹介のコーナーを加える案について議論された。一般の書評の場合には,

書評委員会を作ることや査読も入れるかどうかなどが問題になること、自分で自分の本を紹介することは困難であることなど意見がだされ、懸案事項として留保することとなった。

第2回幹事会の日程

12月11日(木)16時から地震予知総合研究振興会会議室にて開催する予定。

2008年度第2回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2008年12月11日(木)16:00~19:00

場所:地震予知総合研究振興会5F会議室

出席者:北原(会長),武村(副会長),植竹,小松原,中村,松浦,諸井(以上,幹事)

議事

1. 論文の募集及び編集に関して

「歴史地震」論文の原稿募集のお知らせに関し、広報委員よりホームページに掲載したこと及び財政委員より会員に郵送した旨の報告があった。

編集出版委員より、12月11日現在で6編の論文が寄稿されているとの報告があった。

- ・また、今後、データベース化に役立ててゆくために、論文内で扱った地震について、西暦年等・地震名称を参考文献の前の部分に入れる件について審議され、今回から編集時において試験的に実施することが決められた。

2. 大津大会準備に関して

行事委員より、10月25日第一回行事委員会の開催、10月27日に大津市総合防災課への挨拶と打合せ、及び、11月6日に滋賀県防災対策会議室・防災危機管理局への挨拶と打合せを行った旨の報告があった。

- ・9月12(土)~13日(日)は大津市防災訓練と重なる可能性が高い。この場合、市民向け講演会を12日(土)に行い、研究会大会を13日(日)に行うことも考えられる。
- ・市民向け講演会講演は、宇佐美龍夫東大名誉教授及び地元の防災教育や防災関係に取り組んでいる先生の方々にお願いする方向で進めている。
- ・大会会場については、浜大津ふれあいプラザを第一希望とし、1月に抽選が行われる。
- ・懇親会の会場については、「びわ湖大津館」を予約済み。
- ・巡検については、膳所城跡→堅田→今津→朽木→町居崩れ→西大津・京都解散など花折断層を含むコースを考えているが、行程が長いかもしれない。4月に下見を予定。

講演会の準備に必要なアルバイト等の費用は歴史地震研究会で賄うことが確認された。

このほか、大会の発表会について深い議論が出来るように、持ち時間を15分発表のもの以外に25分~30分発表のものも可能としたらどうかという提案があったが、従来通りの持ち時間とすることとなった。ただし、口頭とポスターの組み合わせ発表は可能である。

3. 巡回展示について

会長より、平成21年2月8日(日)午後に東京大学地震研究所主催の特別公開講義・展示について報告があり、メール等にて周知していくことが確認された。また、立命館大学での展示について報告があり、次回幹事会以前に話が具体化してきた場合には、メールにて幹事に連絡をとりあう旨の報告があった。

4. 会誌無償送付先の選定

前回幹事会以降に各幹事は従来の送付先リストについて、組織名・住所などの更新作業を行った。この更新

リストに基づき、最終的に配布先を選定した。結果として従来の 270 箇所を送付先を 193 箇所にまで絞り込んだ。

5. 入会及び退会等について

財務委員より、10 月以降 5 名入会で現在会員数 204 名、うち、7 名について年会費長期未納であることが報告された。連絡が取れる会員については確認をとるが、その他のものについては退会とすることが了承された。

第 3 回幹事会の日程

2009 年 2 月 13 日(金) 15 時から地震予知総合研究振興会会議室にて開催予定。

2008 年度第 3 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2009 年 2 月 13 日(金)15:00～17:00

場所:地震予知総合研究振興会会議室

出席者:北原(会長)、武村(副会長)、植竹、小松原、中村、松浦(以上、幹事)

議事

1. 会誌「歴史地震」論文の投稿・編集の状況に関して

編集出版委員より、投稿が 20 程度であるが、会誌編集規定の頁数を大きく上回るもの、論説として十分でないもの、締切日をかなり過ぎてからの投稿されてきたものがあったことなどから、編集作業が順調に進んでいない旨の報告があった。

出版や論文送付に必要な予算にも影響してくるため、一人あたりの投稿数の制限や超過頁数に対する課金に関して、投稿規定を見直すかどうかについても議論されたが、規定は現状維持とし、運用において適切に対処していくこととなった。

よって、査読に回っていない原稿等については、今後、適切な査読者を選定し、また、今年 2 月を過ぎてからの投稿原稿については、来年度の原稿に回すこととなった。

2. 今年度大津大会準備に関して

行事委員より、1 月 15 日に大津市総合防災課から連絡があり、大津市ふれあいプラザホールが確保できたこと及び 1 月 19 日に滋賀県に訪問したことについての報告があった。一般向けの講演については、植村委員と協議の上で、宇佐美龍夫氏・中島健氏・滋賀県防災危機管理局担当者をお願いする方向で進めている報告があり、了解された。

大津大会のお知らせ(第一報)については、4 月頃に広報委員から相互リンク先の学会などに情報を送るようにすることとなった。

また、会員には、武者メールなどを通じて案内をだすとともに、メールによる連絡ができない会員には、郵送により周知をはかることとなった。

3. 来年度大会に関して

関東周辺として、東京大学地震研究所で実施できるどうかを検討していくことになった。

4. 企画展の後援等に関して

4.1 東京大学地震研究所特別公開講義・展示(本研究会後援)

副会長より、「関東大震災から 85 年・首都直下地震に備えて」公開講義・展示について、農学部弥生講堂で実施され、一般から 300 名程度の多くの参加者があり、活発な質疑があった旨の報告があった。

4.2 神奈川大学非文字資料研究センター第 3 回公開研究会(本研究会後援)

会長より、3月14日(土)横浜みなとみらいランドマークタワーで実施される「震災復興と文化変容 - 関東大震災後の横浜・東京 -」の内容についてパンフレットを用いて報告があった。

4.3 東京都測量設計業協会会誌

会長より、東京都測量設計業協会より会誌「東測協 2009(特集:地図にみる関東大震災)」が送られてきた旨の報告があった。

4.4 立命館大学地理学教室

会長より、立命館大学地理学教室において4月4日~5月9日において、「地図にみる関東地震」が展示予定されており、講演会が4月25日に行われる旨の報告があった。本研究会は後援させていただく方向で話をすすめることとなった。

5. ホームページについて

広報委員より、行事などについてお知らせページを新たに設置する提案がなされ、了承された。

第4回幹事会の日程

2009年5月25日(月)15時から地震予知総合研究振興会会議室にて開催予定。

第26回歴史地震研究会(2009年9月12~14日)開催のお知らせ

歴史地震研究会では、来る9月12日(土)~9月14日(月)に、滋賀県および大津市のご後援を頂いて滋賀県大津市にて第26回歴史地震研究会大会を開催することになりました。行事計画は以下の通りです。講演の申し込みは5月末、見学旅行等の申し込みは7月末締め切りです。琵琶湖と比叡山を借景とする美しい歴史景観の町・大津で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

場所:滋賀県大津市(浜大津明日都4階ふれあいプラザホール)

JR大津駅からバス5分 浜大津下車徒歩3分・京阪電車浜大津駅下車徒歩3分

日程

○9月12日(土)午前・午後 研究発表会・夕刻 懇親会

○9月13日(日)午前 研究発表会(関西関連優先) 午後市民向け講演会・夕方総会

○9月14日(月)見学旅行 朝大津市内を出発し、元暦地震(1185年)を起こした琵琶湖西岸断層帯を中心に湖西地方の地震史跡を巡り、夕方4時ごろ解散予定(詳細は今後検討します)

各種申し込みについて

1. 研究発表の申し込み

発表者(共同研究の場合は研究者全員の名前と登壇者名)・題名・発表形式(口頭発表・ポスター発表のいずれか)を明記の上、5月末日までに行事委員会あてに電子メールで、または小松原琢まで手紙かファックスで、お申し込みください。

口頭発表の持ち時間は1題15分とします。15分では物足りなさを感じる方には、口頭とポスターの両方で発表されることをお勧めします。また、滋賀県を中心とする関西地区に関する講演については、総説的な発表を特に歓迎いたします。

講演申し込み先

電子メールの場合: rokishi09@m.aist.go.jp (行事委員会:小松原琢・植村善博・西山昭仁)

手紙・ファックスの場合: 〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1 中央第7

産業技術総合研究所地質情報研究部門 ファックス番号 029-861-3653 小松原琢

2. 予稿原稿の送付先

発表1件につきA4サイズ1ページ,カメラレディ(そのまま印刷可能な)原稿をご用意願います。白黒印刷であることに配慮した作成(特に図や写真)をお願いいたします。原稿は電子メールまたは郵便にて下記までお送り願います。7月末日必着といたします。編集の都合上,可能な方はEメールにWord等のファイルを添付してお送りください。

予稿原稿の送付先:研究発表申込先と同じです。

3. 見学旅行の申し込み

見学旅行・懇親会の参加申し込みは,7月末日までに講演申し込みと同じくメールrekishi09@m.aist.go.jpないし小松原まで手紙かファックスにてお申し込みください。見学旅行参加申し込みにあたっては,保険加入のため,氏名のほか住所・生年月日・電話番号(携帯電話可)をお知らせください。

4. 懇親会の申し込み

9月12日夕刻 びわ湖大津館レストラン「ル・ジャルダン」にて懇親会を開催いたします。会場は旧琵琶湖ホテル(大津市指定文化財)を利用したびわ湖大津館です。東京歌舞伎座を設計した岡田建築事務所の設計による豪壮な建物で琵琶湖の夜景を眺めながらの宴はいかがでしょう。予約はrekishi09@m.aist.go.jpまたは小松原まで7月末日までをお願いいたします。

一般向け講演会

9月13日午後に研究発表会と同じ会場(約200名収容)において市民向け講演会「近江の国の歴史地震～歴史に学ぶ地震防災～」(参加費無料)を開催いたします。演者は宇佐美龍夫氏・中島健氏・滋賀県防災危機管理局担当者の3氏です。こちらは事前申し込み不要です。

参加費

研究発表会資料代500円程度,見学旅行5000円程度,懇親会費6000円程度(すべて実費,懇親会は学割あり)を当日参加者各位から頂きます。

注意事項

研究会では宿泊予約を扱いません。また会場は大津市中央部の繁華街にあり,建物内にも食堂などの施設が多数あるため,12日・13日の昼食予約は取りません。悪しからずご了承ください。宿泊施設のお問い合わせは,びわ湖大津観光協会(077-528-2772)または大津駅観光案内所(大津市春日町1-3 電話077-522-3830)までお願いいたします。

お問い合わせ

大会に関するお問合せは歴史地震研究会行事委員会(rekishi09@m.aist.go.jp)または小松原琢(電話029-861-3839(直))にお願いします。

『歴史地震』原稿募集のお知らせ

2010年6月発行予定の会誌『歴史地震』(第25号)の原稿を募集します。原稿の締め切りは,2009年12月14日です。発行までには,査読者による原稿査読,著者による原稿の改訂,編集者が体裁などを整えて印刷所に入稿という手順があり,発行を年度末からずらしました。通年投稿を受け付けておりますので早めの投稿がお

勧めです。皆様のご協力が欠かせませんので、ご理解のほどよろしく申し上げます。

『歴史地震』は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成し、記事の種別として、論説、講演要旨、報告などを取り扱います。編集委員会では、第25号を次の記事を中心に構成する方針です。投稿をお待ちしています。

- (1) 2009年9月の第26回歴史地震研究会での発表内容に関連する論文または講演要旨
- (2) 昨年までの研究会で発表された内容、そのほかのオリジナルな内容、各種報告

『歴史地震』は以下の編集体制・方針を取っております。

1. 編集委員会で編集作業を進めます。
2. 論説については、査読制は取り入れています。少なくとも一人が原稿を読んで意見を著者にフィードバックし、不備を指摘・訂正していただきます。
3. 原稿を作成する標準的な体裁「『歴史地震』の標準形式」を定めています。これは歴史地震研究会のwebサイト (<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/>) からダウンロードできます。
4. 電子媒体での投稿を奨励します。少なくとも本文は文書ファイル(フロッピーディスク等あるいはメール)で投稿していただくと、編集作業が効率的に行えます。前記のウェブサイトには、投稿者用のチェックシートもありますので、ご利用ください。
5. 最終原稿は、印刷物としての『歴史地震』のほか、PDF版として歴史地震研究会のウェブサイトですべて公開します。原則として、印刷物はモノクロで刊行します。
6. その他詳細は、次の編集規定をご覧ください。また、以下のチェックを投稿前をお願いいたします。

『歴史地震』への投稿前チェック項目

- ・ 原稿は標準形式のワードファイルですか？

標準形式は、A4用紙で、左右の余白が各2cm、上下の余白は各2.5cm、フォントは和文が明朝体、英文がTimes、句読点は「、」と「.」です。和文タイトル16ポイント(以下ptと略)英文タイトル12pt、所属・著者名は10.5pt英文要旨も10.5pt。著者の連絡先は和文の所属に脚注として加えてください。

キーワードは英文要旨の次の行に Keywords: xxxx, www, zzz. のように記入してください。

ここでセクションを切り替えて、本文は2段組で段の横幅8cm、段の間は7mm程度とすれば本文は10.5ptで1行22文字、1ページ45行となります。

- ・ 原稿の種別は？ 論説・資料・講演要旨・報告・紹介・研究会記事

論説・資料は査読があります。

- ・ 標準形式でA4刷り上がりページ数は？

原稿種別によって規定より長いとページ超過料金が発生します。

- ・ 論説・資料の場合は以下のものが揃っていますか？

和文と英文の表題 和文と英文の著者と所属 英文200語程度の長さの要旨

英文5語程度のキーワード 本文(和文、図表、引用文献)

- ・ その他編集担当にご連絡があれば原稿送付時のメールか添え状にご記入ください。

特にカラー口絵にしたい図がある場合は、その旨、明記してください。費用負担は図にもよりますが、最低1ページ1万円程度の出費は覚悟が必要です。また、紙別刷りをご希望の場合にも、投稿時に明記してください。

- ・ 本文中で和暦と西暦が混同される危険はないですか？

歴史地震研究会では和暦は漢数字、西暦はアラビア数字を推奨しております。

- ・ 1582年以前の西暦はユリウス暦ですか？あるいは暦が明記されていますか？

以上の項目をご確認のうえ、投稿いただきますよう、お願い申し上げます。

歴史地震研究会会誌編集規定

総則

1. 本規定は、歴史地震研究会(以下、本会)の会誌の投稿、査読、編集および出版に関する手順と規則を定めるものである。
2. 本会が発行する会誌の名称は、『歴史地震』とする。英文では、Historical Earthquakes と表記する。
3. 本会の会員は、会誌に原稿を随時投稿できる。また、会員以外からの投稿も適宜受け付ける。
4. 編集出版委員会は、会員または会員以外に記事の執筆を依頼することができる。
5. 本誌の質を高めることを目的として、査読制を採用する。査読の対象とする記事の種別、および査読の手順と基準は、細則に定める。
6. 会誌の記事の投稿から出版までの順序は次のとおりとし、詳細は細則に定める。
 - (1) 投稿者は、編集出版委員会に原稿を提出する。
 - (2) 編集出版委員会は、投稿された原稿を速やかに受け付け、受付日を記録する。また、原稿毎に編集出版委員会の構成員のうちから編集担当者を決定する。
 - (3) 編集担当者は、投稿された原稿を細則に定める基準に従って点検し、必要と判断した場合は、著者に修正を要求することができる。
 - (4) 査読の対象となる原稿は、以下の査読手順を経ることとする。
 - a) 編集出版委員会は、会員または会員以外から査読者を選定する。
 - b) 査読者は、細則に定める基準に従って原稿を点検し、編集出版委員会に意見を提出する。
 - c) 編集出版委員会は、投稿された論文の掲載の採否を、査読者の意見に基づいて決定する。
 - (5) 編集出版委員会は、掲載を可とした原稿について、受理日を記録する。
 - (6) 投稿者は、原稿を校正および清書した後、最終原稿を編集出版委員会に提出する。
7. 各事業年度の会誌の発行号数および部数は、総会が決議した事業計画に沿う。また、会誌に掲載した記事は、本会のホームページで公開する。
8. 会誌に掲載された記事の著作権は、本会に帰属する。

細則

(原稿の種別)

1. 会誌は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成する。記事の種別は、論説・資料、講演要旨、報告・紹介、研究会記事とする。
2. 記事の種別は、次の基準で分類する。
 - (1) 論説・資料は、次のいずれかであり、査読の対象となる。
 - a) 著者による未発表の新知見を含む研究成果を記した論文
 - b) データ・文献・史資料を系統的に収集・整理・分類し、研究に寄与する価値を有する論文
 - (2) 講演要旨は、直近の研究発表会または講演会で発表済みの研究成果の要旨である。
 - (3) 報告・紹介は、研究集会の報告、研究プロジェクトの紹介、著書の紹介など、新しい情報に関する短い記事である。
 - (4) 研究会記事は、本会の活動に関する報告または連絡の記事である。原則として、幹事会または各委員会が執筆する。
3. 記事の刷り上り時の分量は A4 判で、論説・資料は 3～20 頁、講演要旨は 1～2 頁、報告・紹介は 4 頁以下を標準とする。ただし、編集出版委員会が特に必要と認めた場合は、この限りではない。
4. 記事の構成は、次のとおりとする。
 - (1) 論説・資料および報告・紹介は、表題(和文と英文)、著者・所属(和文と英文)、要旨(英文 200 語程度)・キーワード(英文 5 語程度)、本文(和文、図・表・引用文献を含む)で構成する。ただし、報告・紹介では、要旨とキーワードを省くことができる。

(2) 講演要旨は、表題(和文)、著者・所属(和文)、本文(和文、図・表・引用文献を含む)で構成する。ただし、英文で表題、著書・所属を加えてもよい。

(投稿者)

5. 投稿者は、記事の種別、著者の連絡先を明記して、郵送または電子メールで編集出版委員会宛に原稿 1 部を提出する。A4 判の用紙で標準書式になって原稿を作成することが推奨される。
6. 依頼により原稿を執筆する著者に対して、本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる。
7. 投稿者は、編集出版委員会から査読者の意見と編集者の判定を受け取った後、原稿を点検し、必要な修正を加えた修正稿を編集出版委員会に提出する。
8. 投稿者と査読者の意見が対立した場合は、投稿者は編集担当者に対して、編集出版委員会が別の査読者を選定して意見を求めるよう請求できる。
9. 投稿者は、編集出版委員会からの受理の通知後、高品質に印刷した最終稿および電子原稿をすみやかに編集担当者に提出する。電子原稿は、編集出版委員会が定める標準書式に従って作成することが推奨される。
10. 投稿者は、付則に定める掲載料を支払わなければならない。

(編集担当者)

11. 編集担当者は、投稿された原稿を以下の点について判定する。
 - (1) 明白な誤りがないか
 - (2) 内容が会誌の対象の範囲に合致するか
 - (3) 記事の種別が適切か
12. 論説・資料として投稿された原稿について、編集担当者は、細則 11 項による編集担当者自らの判定と、査読者の意見を基に、原稿の取り扱いを次の中から決定する。
 - a) 掲載可
 - b) 修正を条件に掲載可
 - c) 修正後に再査読し、その後に再度判定
 - d) 編集出版委員会で協議して取り扱いを判定
 - e) 掲載不可ただし、原稿の不備が改善しうると期待できる場合は b)、原稿種別を変更すべき場合は b)、原稿に相当大幅な修正を要する場合は c)、複数の査読者の意見が大きく異なる場合は d)、原稿に修正困難な明白な誤りがある場合は e)、細則 1 項に定める会誌の対象の範囲に合致しない場合には e)、と判定する。
13. 講演要旨および報告・紹介の編集担当者は、必要に応じて投稿者に修正を求めることができる。

(査読者)

14. 査読者は、査読を通じて会誌の質を高めるよう努める。
15. 査読者数は、論説・資料は 2 名以上とする。ただし、直近の研究発表会または講演会で既発表の内容に基づく原稿については、編集出版委員会の判断で、査読者数を 1 名とすることができる。編集出版委員会が査読者を選定し、依頼する。
16. 査読手続きに必要な郵送料は本会が負担する。また、会員以外の査読者に対して、本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる。
17. 査読を依頼され、専門分野などの理由で査読が不可能と判断した場合は、すみやかに、編集出版委員長または編集担当者に通知することとする。また、査読者は、専門分野などの理由で必要な場合、編集担当者を通じて、査読者の追加あるいは会員による助言を要求できる。
18. 査読者は、内容に明白な誤りがある場合、表現が不適切な場合、論理に問題がある場合、原稿の種別が適切でない場合のいずれかに該当する原稿に対しては、改善意見を述べることとする。また、論説・資料については、細則 2 の要件を満たしているか否かを判定し、編集担当者に対して、原稿の取り扱いについての意見を示すこととする。

(その他)

19. 編集出版委員会は、特定のテーマを設定して会誌の原稿を募集し、会誌に特集を編むことができる。
20. 編集出版委員会は、投稿者の参考のために原稿の標準書式を、査読者の参考のために原稿点検の標準チェックシートを、それぞれ作成する。

付則

1. 掲載料は次のとおりとする

(1) 連絡担当著者が会員の場合

全頁モノクロであり、かつ細則 3 に定める標準の頁数以内であれば、掲載料は無料とする。カラーの頁を含む場合は、モノクロ頁との印刷経費の差額に相当する実費をカラー頁分が掲載料として課される。また、標準の頁数を超過した場合は、会誌発行経費の頁単価に、超過分の頁数をかけた額が掲載料として課される。

(2) 連絡担当著者が非会員の場合

会誌発行経費の頁単価に、印刷時の頁数をかけた額が掲載料として課される。カラーの頁については、会員と同じとする。

(3) 依頼による執筆の場合は、前二項によらず、掲載料は無料とする。

2. 本規定は、2008 年発行の『歴史地震』第 23 号より適用する。

歴史地震研究会への入会手続きのご案内

歴史地震研究会に入会をご希望の方は、次頁の申請書に必要事項を記入して、係(諸井幹事)までお送り下さい。

送り先: 鹿島建設(株) 小堀研究室 諸井孝文 (当会財政委員長)

〒107-8502 東京都港区赤坂 6-5-30

FAX : 03-5561-2431 電子メール : moroi@kajima.com

歴史地震研究会入会申請書

歴史地震研究会会長 北原 糸子 殿
 歴史地震研究会への入会を申請いたします

年 月 日

ふりがな 氏名		関連分野	
所属機関	名称・部署		
	住所 電話番号・FAX 電子メール	TEL:	FAX:
自宅	住所 電話番号・FAX 電子メール	TEL:	FAX:

----- きりとり -----

- 注 1: 申請書に記された情報は歴史地震研究会の活動以外の目的には使用しません。
 注 2: 会員に配布される名簿に記載されることを希望しない項目は()内に記入してください。
 注 3: 会誌送付先を太字または下線付きなどで強調して記してください。

名簿欄記入例 (自宅情報は非開示, 所属先に会誌送付希望の場合)

ふりがな 氏名	じしん さぶろう 地震 三郎	関連分野	災害科学
所属機関	名称・部署	歴史地震研究所・災害研究課	
	住所 電話番号・FAX 電子メール	000-0001 東京都弥生区文京 1-1-1 TEL: 00-0000-0001 FAX: 00-0000-0002 ○○@○○.○○	
(自宅)	住所 電話番号・FAX 電子メール	000-0001 東京都弥生区文京 マンション耐震 1-1 TEL: 00-0000-0003 FAX: ○○○@○○.net.jp	

歴史地震研究会会則

(2000年10月1日制定, 2002年9月7日改定, 2006年9月16日改正, 2008年9月14日改正)

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、『歴史地震研究会』(The Society of Historical Earthquake Studies)という。

(目的)

第2条 本会は、歴史上の地震ならびにそれに関連する諸現象・諸問題に関して、理学、工学、人文科学、社会科学、および防災科学の研究を促進し、相互の情報交換を行うとともに、一般市民を交えた知識の共有と相互理解をはかることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 研究成果発表会および講演会
- (2) 会誌の刊行
- (3) 広報活動
- (4) その他、必要な事業

(事務所)

第4条 本会は、事務所を東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所内に置く。

(事業年度)

第5条 本会の事業年度は、毎年9月1日に始まり、翌年8月31日に終わる。

(会則改正)

第6条 この会則は、総会において、表決権を持つ出席者の3分の2以上の賛成により、改めることができる。

(規定)

第7条 この会則の実行に必要な規定は、幹事会の議を経て別に定める。

第2章 会員

(会員)

第8条 本会は次に定める会員からなる。

(1) 会員 本会の目的に賛同する個人

第9条 会員は付則に定める年会費を、各年度始めに納入しなければならない。

(会員の特典)

第10条 遅滞なく会費を納めている会員は、次の特典を有する。

- (1) 会誌の配布を受けること
- (2) 研究発表会において、研究成果を発表すること
- (3) 会誌へ論文などを投稿すること
- (4) 総会に出席し、表決権を行使すること
- (5) 総会または幹事会に対して議論すべき事項を提案すること

(入会)

第11条 会員になろうとするものは、所定の申し込み書を会長に提出し、幹事会の承認を得なければならない。

(退会)

第12条 退会しようとする会員は、会長に退会届を提出しなければならない。この場合、未納会費がある時は、それを全納しなければならない。

(入退会時期)

第13条 会員の入退会は、事業年度を単位とする。

(除 名)

第 14 条 本会の会員として著しく不適切な行為のあったと判断されたものは、幹事会の議を経て、会長はこれを除名することができる。

第 3 章 役 員

(役 員)

第 15 条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1 名
- (2) 副会長 1 名
- (3) 幹 事 5 名
- (4) 監査役 2 名

第 16 条 会長は会員の中から総会で選出する。

- 2 副会長および幹事は会長が会員の中から委嘱する。
- 3 監査役は会員の中から総会で選出する。
4. 会長および監査役の選出手続きは付則に定める。

第 17 条 会長は本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長不在時には会長を代行する。
- 3 幹事は幹事会を構成し、かつ総務、財政、行事、広報、編集出版の各委員長をつとめる。
- 4 監査役は本会の業務の執行および会計を監査する。
- 5 各委員会の委員は委員長が選任し会長が委嘱する。

第 4 章 総会および幹事会

(総会の招集)

第 18 条 総会は年 1 回、会長が招集する。総会は会員の 10 分の 1 の実出席を要する。委任状は発行しない。

(総会の決議事項)

第 19 条 総会では次のことを行う。

- (1) 次期会長の選出
- (2) 次期監査役の選出
- (3) 前年度の事業経過および決算報告と、その承認
- (4) 次年度の事業計画および予算案の提案と、その承認
- (5) 会則の改正
- (6) その他

(幹事会)

第 20 条 幹事会は会長が招集し年 2 回以上行う。議長は会長が行う。その他幹事からの提案で、臨時に開くことができる。幹事会は幹事の 2/3 以上の参加をもって成立し、決定は出席者の過半数をもって行う。幹事会は代理出席を認める。

第 5 章 会 計

(資 産)

第 21 条 本会の事業は会費、寄付金、事業に伴う収入および雑収入によって行う。

(事業計画・予算案)

第 22 条 本会の事業計画およびこれに伴う予算は、会長および財政委員長がこれを幹事会の議を経て作成し、総会の議決にもとづき執行する。

(事業計画・収支決算の監査)

第 23 条 本会の事業報告および収支決算は、会長および財政委員長がこれを作成し、監査役の監査を経て幹

事会および総会において承認を受けなければならない。

付 則

第 1 条 第 10 条による会費は、次の通りとする。

会員 3000 円

第 2 条 第 16 条による会長選出手続 会長候補者は 3 名以上の推薦者をもって立候補し、総会の 1 週間前までに幹事会に届け出る。

第 3 条 第 16 条による監査役選出手続 監査役は 3 名以上の会員による推薦を受けた者の中から総会で選出される。推薦者ないし被推薦者は総会開催前に幹事会に届け出る。

第 4 条 本会則は、2008 年 9 月 15 日から施行する。

組 織

総務委員会

文書の受付、配布、会誌『歴史地震』の発送

歴史地震研究発表会の開催に関する事項

財政委員会

予算の編成、決算に関する事項および研究会の財政に関する企画

普通会员の入退会、除籍に関する事項および名簿に関する事項

行事委員会

歴史地震研究発表会の開催に関する事項および他学会協賛に関する事項

広報委員会

歴史地震研究発表会および会誌『歴史地震』の広報に関する事項

編集出版委員会

会誌『歴史地震』の編集出版に関する事項

歴史地震研究会役員および委員名簿

役員名簿

会長 北原糸子

副会長 武村雅之

幹事 植竹富一、小松原琢、中村亮一、松浦律子、諸井孝文

監査役 永井九一、渡邊健

委員名簿

総務委員会 委員長 中村亮一

財政委員会 委員長 諸井孝文

行事委員会 委員長 小松原琢、委員 植村善博、西山昭仁

広報委員会 委員長 植竹富一、委員 小山真人

編集出版委員会 委員長 松浦律子、委員 西山昭仁、行谷佑一